

2020年6月全体朝礼挨拶

6月1日 施設長 宮下正弘

皆さん、お早うございます。

今日から6月。6月1日は時の記念日ですが、年々時の過ぎるのが早く感じます。南の方では梅雨入りしていますが、北東北はまだで、梅雨入り前の一番いい季節です。先月の誕生会では、鈴木スワさんの100歳のお祝いを、ご家族5人も参加して致しました。おうちの方も大変喜んでくれました。当苑の20周年誌を見ますと、2000年11月と2013年3月に100歳の方のお祝いをしています。ですから7年ぶりとなりますね。



さて、今月は特異な月です。それは何でしょう。実は

6月の誕生者さんが一人もいないのです。これは去年もそうでした。で、昨年はどうしたかといえば、恒例の第3木曜日に表彰式を行いました。年号が5月から平成から令和に改まったのを契機に、大正・昭和・平成・令和と4元号を生きた皆さんを表彰したのです。何名だったか、正確な数は忘れましたが、20名ほどだったと思います。入所者さんの2割ですね。この皆さんは、この間第二次世界大戦があり、青春の時を戦争に奪われた世代、そしてその後は日本の復興と成長にご尽力くださったからがたです。余生をゆっくりと、楽しく送っていただきたいと念じています。

今年は、誕生会の代わりに「お楽しみ会」をすることにして、今介護の水沼課長を中心に企画を検討中です。開苑以来初めての運動会をやろうという案で動いてると聞いています。楽しみです。最近職員から斬新な企画がどんどん出てくるのを、とてもうれしく思っています。

所で6月誕生者がいないのは当苑だけの特殊事情なののでしょうか。厚生省の月別誕生者数の統計を調べたら、6月は100年前1919年から出生数はずっと最低なのですね。昭和41年の丙午を過ぎたころから月別の差は少なくなっては来ていますが…。多いのは1月、2月、3月です。下の図をご覧になれば、納得されると思います。

そんな訳で、今後も6月は通常の誕生会でなく、創意工夫を凝らした企画を考えて、普段と違った入所者さんたちの姿を見、笑顔を引き出すのもいいのではないのでしょうか。では今月も事故の無いように気を引き締めて、業務にあたってまいりましょう。よろしくお願いいたします。

